

2023年10月9日(月)午後 『勉強会』

齊藤：はい、それでは始めます。皆様、こんにちは。10月9日月曜日の勉強会を始めます。一番最初に世界平和の祈りを行います。(平和の祈り) はい、ありがとうございました。

12時過ぎだと思うんですけど、こういう大まかな内容でやりますというメールを送りました。事前にいただいていた質問に答える形で二つテーマを選びましたが、一つ目は「見えない世界がイメージできない」っていうお話が何人かの方からありました。もう一つは、「過去はもうないんだ」、「過去はない」、この「過去がない」ということがよくわからない」というお話でした。それを最初に話をしてから、前回しました「ありがとうございます」のお話、「感謝一念の生活」の話のおさらいをします。そして最後に、次元に関するお話をしようと思うんですけど、多分時間が足りなくなるんじゃないかと思うんですけど、次元とその制限を解除するっていうお話についてやっていきたいと思います。

まず見えない世界がわからないという話についてです。よく、土曜日夜の祈りの会で、「あちらの世界にも光が行き渡るように」とか、「心の中に光が行き渡るように」とかってやるんですけど、そういう“見えない世界をイメージしようとするんだけどイメージできない”ということなんですけれども、まずはね、これはある方に送ったメールなんんですけど、それを読ませていただきます。個人名は出しません。

土曜日の夜の神聖復活の印のときに使用している地球の動画、地球がぐるぐると回っている動画は、心の奥に無限に展開する本当の宇宙を疑似的に観察して、俯瞰できるようになるための道具として、あの動画を使わせていただいております。

私達が普通自分だと思ってるこの意識、肉体の五感で私達が認識している宇宙は全宇宙の1%にも満たないものです。これは肉体の目で認識できる世界、宇宙、これが全宇宙の1%にも満たないということで、心理学の世界では、人間の心っていうのは、潜在意識が95%で、顕在意識、いわゆる表面の意識が5%というふうに言われてるんですけども、私はもっと表面意識は少ないんじゃないかなと思っています。

いろんな世界がある、いろんな天地がある、いろんな宇宙が、いろんな世界が、宇宙のいろいろなところに展開している。それは、波動の異なる天地ですね。一口に靈界っていっても靈界にもいろいろな世界があって、神界っていってもいろいろな世界があってっていうふうに、これは村田正雄さんの靈界通信シリーズを何度も何度も本に穴が開くぐらい読みますと、よくわかります。私達の肉体の五感には感じられないだけで、実際には本当に、いろいろな階層のいろいろな天地が同時に存在しています。今この瞬間に存在しています。

『天と地をつなぐもの』という本があるんですけども、その中で、昭和24年、五井先生が実際のこの肉体のご自分の意識で、“写実的神我一体”って言葉が出てましたけれども、自分の肉体意識で神我一体を体験された描写があります。そこでは、“五井昌久”と名付けられた肉体人間の意識の本体が神界に実在していたことが書かれています。

初めから存在してたご自身の本体と向かい合って、その本体の中に溶け込んで合体し、ご自分が本体そのものになって、今どきの言葉で言えば“神聖復活した意識”で、神そのものとして改めてご自分の目で見てる世界を見つめているという描写がありました。「ここは確かに神界である」って書かれてたんですけど、私達は一足飛びにそういうところへは行けないかもしれないんですけど、意識や心を不自由にしてしまっていた足かせ、手かせになっている自己限定、自己否定の類の制限の把

われの想いを解消していくことで、私達の意識は、本当の次元上昇を果たすことができます。

まずは五次元の意識を標準にするっていうところに今入ってきてます。そうすると、宇宙の神々の一員として、私達も宇宙を創造したいのちの大元の理念である“大調和世界”を、神々と一緒にあって顕現してゆけるということになるんだと思います。

今の制限を外すっていう話は、一番最後にするんですけれども、「見えないからわからない」「見えないからできない」とかって思うのは、肉体の頭が勝手に思っていることなんです。皆さんもご存知だと思うんですけど、人間の大脑は右脳と左脳でできます。この左と右の脳は働きがそれ異なります。

一般的に言われているのは、左の脳は、論理的な思考を司っている。右の脳は、直観的な思考を司っている。私達のこの意識をよく観察するとわかってくることなんですけれども、意識っていうのは、そういう論理性と直観性、私の個人的な言葉でいえば、それは知性と理性って言ってるんですけど、知性が左脳の働きだとしたら、理性は右の脳の働きです。

理性というのは理(り)、理(ことわり)という意味があります。理(ことわり)がわかるためには、観察する必要があるんですね。観察すれば、観察したものの理(ことわり)がわかります。どういう仕組みになっているのか、どういうふうにできているのか。観察するためには、左の脳の思考が邪魔なんです。これがいらないんです。そのまんまを見る。そのままを見る。ありのままを見る。あるがままを見る。見たものに対して何のジャッジもせず、批判もしない。批判や非難をしない。評価もない。レッテルを貼らない。ただ、見るっていうことが右の脳の働きです。

だから「わからない」っていう想いに入り込んでしまってる状態というのは、左の脳が強く働いて、右の脳をあまり使っていない状態です。それは、思考が前面に出てきて、ただありのままを感じるっていう、力が奥に隠れてしまってる。だけど、ただありのままを見つめる力がないわけじゃない。それは、初めから誰もに平等に備わってる力なんです。

だから、これ宗教的な言い方したら、“自分をなくす”ことが大切だということになります。「自分が、自分の、自分で、自分に、自分、自分、自分…」と、肉体を自分だと思ってる意識で、なんでもかんでも思っていると、そういうわからないって思いが働くんですけど、この肉体を自分だと思う、習慣になってしまってその癖を薄める練習を 1 秒 1 秒、一瞬一瞬の間にやっていくと、だんだん本当の自分が表面に現れてくるようになります。

なので、わからないから駄目だよねっていう問題じゃなくって、わかんなくても構わないんです。ただ、あるっていう事実を知る。事実を認める観察すればわかるんです。例えば、見えないもの、この肉眼に見えない小さな世界のものでも、顕微鏡を使って観察すると拡大されて見えて、細胞の動きでも微生物の動きでも、見ることができるようになるんですけど、見えないから、信じられない、見えないから「無い」って思うのは傲慢なんですね。あるんですから。最初から見えなくてもあるものはいっぱいある。

それが肉体の頭で考えてるよりもよっぽど多く、最初に 99% と 1%って言いましたけど、「私たちが知ってる世界は宇宙の 1%にも満たないんだ」ぐらいに謙虚に考えて、その 99% の世界を全部いっぺんにはわからないかもしれないけれど、自分の意識を意識進化して拡大していくことでわかるようにしてゆく。

意識っていうのは球体、円、玉なんですけれども、この球体の幅を広げていく。そうすることによって、見えなかったことも直観的にわかるようになります。見えないものが見えるようになるってあの靈眼が開くとかそんな話は、多分本当に一部の人で、ほとんどの人は見えないけれど、わかるっていうそういう世界に入ります。

それが五井先生のなさりたかった人作りなんです。「六神通の中の漏尽通を開発する一番の近道を私は教えるんだよ」っておっしゃってましたね。漏尽通っていうのは、神の心を自分の心とした意識状態。そうすると、自分の思うことが自然と神そのものの想いになり、自分の口から発する言葉が自然と神そのものの言葉になり、自分が表し行う振る舞いが自然と神そのものの行いに変わる。

意識して無理にそうしようとしてるんじゃなく、自然と神が現れる。自然とそういう状態になる“育てられ方”を私達はされているんで、その流れに乗ってさえいれば、「自分が、自分の、自分で、自分、自分…」と思わないでその流れに乗ってれば、本当の自分が自然に開いてきます。だから今開いてなくても何の心配もいらないです。わかんなくても大丈夫です。

はじめに、「地球儀を回しながらそれを見ながら印を組むっていうのは俯瞰する練習のため」って言いましたけど、練習でいいんです。練習すれば、だんだんと本物になっていきます。だから、あんまり、何か目の前のこと、喜んでみたり、がっかりしてみたりしないで、「私は元々宇宙そのものなんだ。だから宇宙のことがホントはわかってるんだ」「本当の自分はわかってるんだ」と思って悠々とゆったりとした気持ちでおられるのがいいと思います。

無理にイメージしようとする必要はないという話ですね。イメージしようしなければ、逆に観えてくるんです。それはさっき言った“観察の状態”になるからです。ただ、観察するっていう、そういう状態になるためには自我を薄めなきゃいけません。肉体が自分だと思う想いを薄める必要があります。

私が“自我を薄める練習”として近い人たちによくおすすめしているのは、「自分が自分だと思ってたのは本当の自分じゃあなかったんだなあ」という言葉を、こう感嘆するようなニュアンスで、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」ってやるように唱え言のようにしてやっていると、守護霊様が本当の自分の欠片を、本当の自分のピースを、私達の中に直観として、閃きとして流し込んでくださいます。

だけど、欠片がちょっとしかないと、流し込まれてもわかんないんですよ。でもそれを繰り返して、神聖のカケラ、本当の自分の欠片が自分の中にいっぱい集まってきたら、これパズルをやるようなものなんですけど、欠片をはめていくと、そこに絵が浮かび上がってきます。だんだんと神聖の欠片が自分の意識に揃ってくると、「あっ、神聖ってこういうことなんだ」ってわかるようになります。

だから、やっぱり守護霊の中に入り込んで、守護霊様と一つになって生きるっていう、私達がもう何十年も前からやってきたはずのことを本気でやる。「本当になってやる」ってことが大事なんだと思います。“やってるつもり”ではなく、本当にやる。「でも本当にやるって言われたって、どうやってやつたらいいかわかんないですよ」っていう人がいます。

本当にやるっていうのは、守護霊様に感謝し続けることです。「見えもしない、聞こえもしない、そんな存在に感謝しろって言われても」って思う方もいらっしゃるかもしれないけど、守護霊様は私達にずっと一緒にくっついて、後ろなのか斜め上なのかわかんないですけど、私達とぴったり一つになって、ここにいます。皆さんがそこにいるっていうことは、皆さんのがころに守護霊様がいるんです。守護神様はもっと命の奥の方で、太陽のように光ってます。その一番身近な守護霊様

と一つ心で生きる。「1人で生きてるんじゃないんだな」「自分は1人じゃないんだな」「守護霊様と一緒に生きてるんだな」っていう、そういう想いを根本にして、「守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。」とやる。

1日の中で何回も何回も何回もやり続けると、本当に守護霊様と一つになります。自分が思うこと、語ること、表すことが、守護霊様の意識とかなり一致してきます。なぜ、「ありがとうございます」ってやってると一致するかというと、「ありがとうございます」という言葉が、感謝する対象と自分が一つになる呪文のようなもの、魔法の言葉なんですね。「ありがとうございます」ってやればやるほど、感謝した対象と一つになってくんます。だから何にも難しい理屈なんかいらないんですね。

この間の前回の勉強会のときの「ありがとうございます」の振り返りになりますけど、前回の勉強会のときに、「真理の裏づけがなければ「ありがとうございます」なんてことは、できないんじゃないかな。言っちゃいけないんじゃないかな」ということをおっしゃってた方がいらっしゃいましたけど、真理がわからないからこそ、「ありがとうございます」という言葉の響きに乗って、一つになる練習をするんです。

私がやり始めたときは、真理をわかってませんでした。わかってないからこそ、他人のこと悪く思い、人の好き嫌いは激しく、世界平和の祈りをしながら、「本当に人間関係ってやだな」って本気で思ってました。それは真理がわかってなかったんです。でもそんな真理がわかってない人も、難しい理屈は考えないで、「ありがとうございます、ありがとうございます」ってやってるうちに、他の方もおっしゃってましたけど、本当のありがたみが、奥から自分の心の奥からにじみ出てきたんですね。

まず守護霊様と一つになる。階段を一步一步登るようなイメージです。神我一体のはじめの一歩は守護霊様との一体化なんです。“守護霊様”などという、なんか自分じゃない別なものっていう気になってしまふんですけど、守護霊意識というのは一人の人間の魂の中に初めから組み込まれている自分の内部神聖です。だから、守護霊と一体化するっていうのは、自分自身の内部神聖を顕現することになります。

ワンネスって言葉を私達は使うんですけども、ワンネスというのも、ものすごく浅く考えてる人もいれば、「いやー、本当に一つですよね」って実感を感じながら言う方もいれば、様々なんですけれど、命の源に元に還って観れば、どんな人の命も究極の一点にたどり着きます。それは宇宙を作つて今も運行している意識、創造主って言ってもいいんでしょうし、宇宙神って言ってもいいでしょうし、その呼び方はどうでもいいと思うんですけど、私は「いのちの源」って言いますけれども、この究極の一点に自分の意識の焦点を合わせると、「みんな一つ命なんだ。人間たちはもちろん、すべての生き物、生物、それから、空気も水も大地も、全部自分の中にあったんだ」っていう認識に近づいてきます。一遍にはなりません。少しずつ近づいていく。

過去がないという話、過去がないっていうのがわからないという話はまだでしたね。「過去がない」という言葉がよく白光では言われてますね。「過去はもうないんです」と。これは、例えば言葉を変えてみると、過去はもう消えたんですっていうことになるんだと思います。もっと角度を変えて言うと、過去はもう消していただいたんですっていう言い方になると思います。

だけど、どんなに消していただいても、自分が消えてないと思ったらその人にとての過去は、今も続いてる。だから「誰かが過去がないって言ったから、過去はないんだ」じゃなくって、自分が「過去は消えたんだ、消していただいたんだ」って思えた瞬間に、過去はなくなつたということに

なります。

そうは言っても、自分が「過去はないって思おうとしてもできない」っていうことになるんですね。それは習慣の想いです。習慣の想いっていうのは、“過去を引きずることが生きがい”なんです。過去を引きずらずにいられないんです。過去は置いといて、未来に向かって邁進しようとすると邪魔をしてくるんです。それがエゴです。個我ですね。

そういうエゴや個我というのは、本当の自分、神聖の自己を忘れていた時代の名残の想いの癖として、私達の心の中に生息してるんです。ない人は悟ってます。でも、肉体を持って生きてる限りは、ホントにない人はそうはいないと思います。

この「過去がない」っていうことを実感するために、どうすればいいかっていう観点から言いますと、『今を真剣に生きる』っていうその1点になるんじゃないかなと思います。人間の心というのは、面倒くさくできてるんです。「今を真剣に生きるって言いますけど、真剣に生きるってどういうことですか？」ってすぐ他人に聞きたくなる。

この話をしていたある方が私に言いました。「どういうことですか？って人に聞いてる時点でもう駄目なのよね。答えは自分の中にあるだから。自分の意識でわからなくとも、それを見つけようって努力する、練習するってことが尊いんじゃないかしら。」って、その方はおっしゃっていましたけれども私も賛成です。

今を真剣に生きるというのは、例えばそれは、「守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。守護霊様、ありがとうございます。」って、他の考えの入り込む隙間のないぐらい、守護霊様へ感謝し続ける。これも一つの今を真剣に生きることだと思います。

あの何でも…、本当はやり方なんて、もう人の数だけあるんです。例えば、ある人は、道を歩いてても座ってても寝てても、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。すべては完璧、欠けたるものなし、大成就。」って、ほかの想念の入り込む隙間もないぐらい、それを心の中で唱えることをやられる方もいます。それも今を真剣に生きることだと思います。

これ、一生やる話じゃないんです。一生の中の、人生の中のほんの一時期、それをやることで、自分の意識が脱皮するんですよ。脱皮したらもうそんなことやらなくていいんです。言ってみればそれは五井先生の想念停止の修行のようなもんだと思います。五井先生は一生、想念停止の修行やってなかったです。人生の中のごく一時期でした。

私達も同じです。ごく一時期、1ヶ月か何週間かわからない。1ヶ月かもしれない。2ヶ月か知らない。3ヶ月かもしれない。半年位やらなきゃいけない人もいるかもしれない。もしくは何年もかかる人もいるかもしれない。だけど、せいぜいそれぐらいです。何十年もやり続ける話じゃないんです。

意識を意識的に使う。神聖にフォーカスする。神聖に焦点を合わせて、ラジオの周波数を合わせるように神聖にチューニングする。あの、昭和の方が多いと思うんでわかると思うんですけど、昔のラジオはつまみを右に左に回して周波数を合わせてラジオ放送を聞いてました。それと同じように、意識の焦点を神聖にチューニングするんです。合わせるんです。その練習をするっていうことです。これをやってると、必ず結果が伴ってきます。

今日はぜひ、これを伝えておきたいって思ったのは、何人かの方にはすでにお話してるんですけども、守護霊・守護神は、私達に結果を求めていません。結果を求めていない、重要視していないと

ということです。じゃあ、私達の何を見ているのか。一瞬一瞬の意識の動きです。常日頃の意識状態の変化です。真摯に、前向きに、謙虚に、諦めることなくうますたゆまず取り組んでいるかどうか。

「どうせ見てないんだから、ちょっとぐらい手抜いたってわかんないよな」って思っても全部お見通しです。全部わかってます。私達の一瞬一瞬の意識の動きを見てるんです。能動的に発する想念の動きを見てる。そのプロセスを見てる。経過を見てるんです。その経過を見てて、ある一定期間の経過が、守護霊・守護神様方がもう拍手するような状態の場合には、守護神様が一瞬で引き上げてくれます。

そのとき、意識が変わります。生きながらにして生まれ変わったような状態になります。皆さんの中でも経験されてる方、いるかも知れないんですけど、朝、目が覚めて、自分の昨日までの記憶が残ってる。自分の名前もわかる、家族の名前もわかる。だけど、目を開けて見た視界に映ってる世界が、これ自分の家の中なんだけど、ものすごくそれが新鮮になるときがあるんです。外へ出たら出たで、知ってる景色なのにものすごく新鮮に映るときがある。そういうときは大きく引き上げられたときです。

そういう実感を伴わぬで引き上げられてる場合もあるんで、必ずしもそういう体験をするとは限らないんですけども、守護霊・守護神様は経過を見ているということです。だから何かを失敗したとか、何かを成功したとか、何かができるとか何かができるないとか、そういうことは守護霊・守護神様方の側から言わせると、何の価値もないことです。肉体人間が勝手に思ってことです。

それを一言で表現すると、『把われの想い』って言われるもので、消えてゆく姿にするべきものです。思い込み、こだわり、決めつけ、執着…、そういう類の想いを消していく、手放していくっていうことが大事なんだと思います。

「消えてゆく姿」って言葉が今出たんで、ちょっと補足しますと、皆さん、内緒にしてくださいね。今から言う話は、公に出てる話ではないです。他の人に他言無用でお願いします。2017年7月2日、神聖復活の印が降りて、当時は目覚めの印って言ってましたね。神聖復活目覚めの印って言ってました。そこから多分間もない頃の話だと思うんですけど、昌美先生は、理事の方々と娘さん方を目の前にして、こういうお話をされたそうです。

「これからはね、神聖復活目覚めの印でたくさんの人たちが繋がってくるけれども、あなた方はそれで安心してちゃ駄目なのよ。『消えてゆく姿で世界平和の祈り』ができるところまで導かなくちゃいけないの。本当の“消えてゆく姿（手放してゆく姿）”ができないと、人は救われないものなのよ。」これは公に出てない話なんで、内密にお願いします。

本当の消えてゆく姿を実践するんです。旦那さんの中にも、奥さんの中にも、他の人類にも世界にも、消えてゆく姿なんてないんです。あるのは、自分が他人を見て、「悪いな」「駄目だな」「嫌いだな」と、そういうネガティブな想いを起こす、自分の想いだけが消えてゆく姿なんです。（よい風に思うことも、それを手放さないならば消えてゆく姿になります）

「人は鏡だ」って私よく書きますけど、他人に感じる想いをアップデートする、バージョンアップする、進化させる。人を見て、「なんだ、あいつ」とか、「何でこの人はこんなことやるんだ」とか、その人のことを指して自分はそれを思ってるつもりなんですけど、最初に言った“観察の意識”でよくその自分の状態を観察すると、相手に感じたその想いの原因が自分の中にあるんです。そこを観て消えてゆく姿にする。

他人がいいでも悪いでもないんです。みんなと共に通の話で言えば、プーチンがいいでも悪いでもないんです。ゼレンスキーがいいでも悪いでもないんです。ただ、彼らは果たすべき因縁を果たすべく、淡々と動いてるだけなんです。それを見て、良いとか悪いとか思ってるのは他の人たちですよ。彼らは彼らなりに真剣に生きてるんです。

私達はどうすればいいのか、神聖を観て差し上げることです。プーチンに、ゼレンスキーに、ロシアの方々に、ウクライナの方々に、神聖を観て差し上げる。認めて差し上げる。それが、私達のやらなきゃいけないことだと思います。

人類即神也の宣言の中に「すべては人類即神也に至るプロセスなのであるから、なんら一切、批判・非難。評価せず」という言葉がありますけれども、あれを本当に実行に移すときが今なんだと思います。

そのためには話が最初に戻りますけど、肉体を自分だとはゆめゆめ思わないことです。命の光なんです。9月23日ですか、大林さんの告別式があってお通夜、告別式に行ってきましたけれども、お顔拝見したら本当に良いお顔されてるんです。でも、そこに大林さんはいないんです。抜け殻って言葉がありますけど、本当に大林さんの形をした抜け殻がそこにある。その姿を見て私の記憶は大林さんだと思う。でも奥の私は、「これは抜け殻だよ」って言う。

人間は光だとか靈だとか、いろんな表現のされ方がありますけれど、肉体というものが、この世界で生きる一時期生きるために入れ物・乗り物・器なんだっていう意識を本当に自分のものにしていけたらいいなと思います。

それでは、ちょっと次元の話をあっさりとやります。皆さん、次元って言葉、1次元・2次元・3次元ぐらいは聞いたことがあると思います 4次元って言葉も 5次元って言葉も最近は言われ出してるんで、聞いたことがあると思います。

0次元から振り返ります。点です。点の世界。それが、0次元。

1次元の世界は、点と点が繋がって線になった世界。

2次元はそれがさらに広がって面になった世界。面の世界が2次元、例えばこの世界地図（私の後の世界地図を指している）は、2次元に落とし込まれた世界地図です。3次元4次元の地球を2次元の世界に平面的に展開したもの、これが2次元の地球です。

3次元、もうこれも言われるまでもないと思うんですけど、立体の世界です。点が線になり、線が面になり、その線や面がもっといろいろ複雑に組み合わさって立体を作る。止まった立体の世界、動きがない立体の世界。それが3次元です。例えば、ここに置物が、あるんですけど、これは3次元の置物です。“リラックスくん”といいます。

4次元の世界。これは本当に人によって言い方が違うから、ちょっとわかりづらいところがあると思うんですけど、今までの0次元・1次元・2次元・3次元の言い方の流れで言うと、4次元というのは、立体に動きが伴った世界。動く立体の世界。ある方は、立体に時間が加わった世界だっていう方もいます。

私達今の意識というのは4次元あります。意識です。体じゃないです。意識が4次元あります。4次元にいると4次元全体が認識できないんです。4次元の全貌が認識できない。でも、例えば、地球をこのように、2次元に落とし込むと、地球が俯瞰できます。3次元の地球儀でもいいですよね。地球儀、球体の地球儀をくるくる回しても、私達は地球の表面ですけど、全部わかります。2次元に

落とせば、なおさらはっきりと、もう一望できます。今、盛んにこの“神聖の視座”だとか、“俯瞰する立ち位置”だとか、”バードアイズビュー“だとか言ってます。”バードアイズビュー“というのは俯瞰するということを英語で表現した言葉です。私、面白いなと思ったんですけども、”バードアイズビュー“、”鳥の眼”っていうのは高いところを飛んで見えた視界です。高いところにあるから広く見渡せる。それを持って、英語では“俯瞰”という意味を与えたんですね。

4次元について4次元がわからなかった私達が、今、表面意識が何にも知らない、私達のあざかり知らないところで、神界の神々・宇宙天使群の方々が、私達の意識を5次元に引き上げる段取りをしてくださってます。

意識が5次元に入ると、4次元を俯瞰できます。4次元を俯瞰できると、今のこの肉体の中にあって、私達は悟りを開きます。神我一体になります。程度は別問題として、初心者編でも、もうちょっと中級者でも、いろんな神我一体がありますけれども、必ず悟りの境涯に入れます。

この5次元の一端の話をさせていただきます。人生は一瞬一瞬が選択の連続だってメールに書きましたが、意識が5次元状態に入り始めると、自分が何かを行動する前に、自分が何かを選択する前に、未来にこれをしたらこうなる。これを選んだらこうなる。この道を行ったらこうなるっていう未来が、複数の未来が同時に見えるんです。

最近、よくいろんな方に言っているのは、例えば車の免許持っていない人も想像してください。自分が車の運転をしています。後ろから煽られました。「なんだ」って思ってたらものすごい勢いで危ない追い越し方をして、自分の前に出てビューってものすごいスピードで行ってしまいました。そのとき、自分がどういう行動するかっていうのが、動く前に自分が行動を起こす前に、未来が見えたらこうなります。

行動を起こす前に、カチンときた未来を選択すれば、自分も相手をものすごい勢いで追っかけて、逆に煽ってお互いの車から降りて喧嘩になるっていう未来。もう一つの未来は、「しょうがないな、ああいう人もいるよね」って思って、別に感情を乱さないで運転を続ける未来。人間はそういう選択肢が目の前にあるのに見えなかった。今まで見えなかったから、感情の赴くままに、思うがままに動いてきました。

でも5次元に入ると、行動を起こす前にもういろんな未来が見えるんです。だから宇宙の真理である“大調和の法則”に基づいて、「この未来を選択すればいいよね」ってものを正しく選択できるようになります。

人によっていろんな言い方をしてるんですけど並行宇宙っていう方もいれば、パラレルワールドっていう方もいれば、物理学の用語を使って“様々な世界線”があるっていう言い方をする人もいれば、いろんな言い方をする人がいるんですけども、選択の自由が生じるっていうことです。5次元に入ると、いろいろな世界が同時に見える、同時にわかる。瞬間にわかる。

6次元は私もまだ行って、入り込んでないんで、何とも言いようがないんですけど、時間の伸縮が可能な世界だって言われています。もう無敵の世界ですね。

さらに7次元、8次元ってなるともうまったく想像もつかないんですけど、まずは4次元から5次元に意識進化する。どうやって意識進化するのかっていう話なんんですけど、これが【制限を解除する】っていうことなんです。

白光の人たちは、消えてゆく姿をコツコツと実践するっていう捉え方でいいんだと思います。そう

すると、制限解除しようと思ってなくとも制限解除になるんですよ。消えてゆく姿っていうのは把われがそれだけ薄くなってくれっていうことですから、消えてゆく姿を実行するっていうのは、把われの想い、自己限定、自己否定の想いを薄めていくってことになってますんで、意識の次元が上がります。

だから次元っていう言葉を、私はある方のお話を聞いて本当に「なるほど」って思ったんですけど、次元っていう言葉を制限解除の段階と捉える。制限を解除していく段階のことだというふうに捉えたらどうだって話があって「なるほど」って思ったんです。

例えば1次元っていうのは、制限が一つしか解除されてない世界。2次元っていうのは制限が二つしか解除されてない世界。仮に10次元を、もう宇宙の全部が完成された世界だとしたら、そこへ至るまでに3次元っていうのは、三つだけ制限を解除した世界。4次元っていうのは四つ制限を解除した世界。5次元は五つ制限を解除した世界。

次元っていうのは意識のことなんです。物理的な問題じゃありません。認識する私達のこの意識です。すべては意識によって生じている。この意識の制限を外していくことで、私達の意識は次元上昇を果たしていけるっていう、そういうことになっています。

制限解除っていう観点から、この自分の想念習慣を眺めてみると、いろいろ面白い発見があると思います。ごめんなさいもう2時10分回りましたね。はい。次元の話はまたおいおい、やっていきます。でも別に知らなくても、何の問題もないことだと思います。もう本当に必要なことはもうこの世界に出揃ってますんで、ただ観点を変えた話だっていうふうに捉えていただけるといいかなと思います。

はい、ごめんなさい。また一人で長々と喋ってしまいました。どなたか質問でも何でも。ご意見でも何でもいいです。自分のマイクをオンにできますから、オンにしてお話ししてください。どなたでも大丈夫ですよ。福岡の鎌田さん、いかがですか。

参加者：今日はありがとうございます。私はいい勉強させていただいているなと思っておりまして、よく由佳先生がアボガドのお話をして、「1人1人の神聖が本当に輝いているんですよ」というお話をお聞きして、アボガドでイメージしておりますけど、今日、齊藤さんの「自分の肉体を自分だと思わない、いのちの光だ」というところに何か衝撃が走って、いのちの光なんだっていうのが、今日はすごくなんか、震えるぐらいに何かありがとうございました。ありがとうございます。

齊藤：ありがとうございます。私、別に宗教団体立ち上げてるわけじゃないんですけど、宗教団体をもしも立ち上げるとしたら、『いのちの光教』って名前になるんだと思います。神って言葉を使うことがちょっとなんか、未だに宗教嫌いの癖が直ってなくて、神って言葉を使わないので神の実態を表現できないんだろうかってずっと長い間思ってたんですけど、私個人の中では、「いのちの光」というふうに表現すると、一番自分が納得するというか、しっくりきます。

別にこうじゃなきゃいけないっていうものじゃなくって、1人1人にそれがあつていいと思うんです。これからはみんな、なんていうんでしょう、自分の言葉で真理をお伝えしていくっていう、そういう時代に今、入ってると思います。

本当の本質を掴んでいれば、言葉が違っても何の問題もないと思うんです。そのときに大事なことは、「いい話を聞きました」「いい本を読みました」というときに、読んだものをそのまま人に話すんじゃなく、聞いた話をそのままオウム返しのように他人に伝えるのではなく、お味噌とか納豆とか、あとなんかキュウリとか突っ込むの何でしたっけね、良い発酵させるっていうこと。

聞いた話、読んだ話を自分の心の奥に入れ込んで、発酵期間を置くんです。それは 1 週間かもしれないし、10 日、20 日、1 ヶ月かもしれないし、もっとかもしれないんですけど、適切な発酵期間が過ぎると、それは自分の中に発光させた真理が光を放つものになって現われます。

発酵させると自分の中から発光するんです。それをやることで、ただ単に、「誰々先生がこう言ってました」とかっていう人の受け売りじゃない、自分の言葉で、真理を語れる“魂の自立した人”に私達はなってゆけるんだと思います。

五井先生の感謝は、心の中で思っていればいい。私達自身が輝いてみせれば、今この時代と一緒に生きてる人たちが、磁石に引き寄せられた錆びた釘も磁力を持つように、みんながクリップでも何でも自分が磁石になって、いろんな人とくっつくと、相手も磁力を持つっていう、そういうことになってくれんだと思います。

もう本当にあんまりネガティブな話はしたくはないんですけど、今も地球は揺れています。太平洋のこのあたり（地図で指差し）ですかね。原因不明の地震って言われてますけど、はい、ええ、今週、小さな津波が日本に来ます。

アフガニスタンでも、大きな地震がありました。イスラエルとパレスチナ、ハマスですか。その動きに近隣諸国、イラン、サウジアラビア、エジプト、アメリカとか他の国も今、反応して、「自分たちはどう動こうか」っていう状況に入っています。ロシアはロシアで、「俺たちはここにいるぞ、俺たちを忘れるな」ってまた、大きな花火を打ち上げれかねません。

本当にどうなるか、未来がどうなるかは予断を許さない。状況なんんですけど、でも私達は、最終的に必ずすべてが良くなるっていうところをしっかりと掴んでさえいれば、起こった出来事にいちいち不安動搖するんじゃなくって、心を落ち着けて、そういう動きをしてる人類の心をよく観察して、とか悪いとか好きとか嫌いとか思わないで、ただ、太陽のように、いのちの光を発信していくことができるんだと思います。

ただ一つだけはっきりと言えることは、今までの文明の、今生きてるこの人類の社会の常識が、そのまんま大調和した世界には通用しないということです。終わらざるを得ないんですね。この文明は。

その終わり方を、神々がきっとなるべく痛みの少ない形で、終わらせようとされてるんだと思うんですけれども、どういう形であれ、今までの常識が通用しないときが来ます。お金が価値を持たないときが来て、一時は物々交換みたいなことになるかも知れないんですけど、でもその先には、神聖文明のまったく今までの常識では想像もつかないような、宇宙の他の星々では当たり前のことが地球の常識になっていくんだと思います。

何が新しい常識かということを、もう私達、早い人は昭和 30 年代から学んでらっしゃると思うんで、別にまったく何にも知らない未知の世界に入っていくわけではありませんけれども、“もう今までの常識はどっかで通用しなくなる”っていうことだけは、心に留めておいた方がいいと思います。

そのための“言霊の唱名”ですか。「やがて地球に迫りくる地球規模の大変革」、この間もこの勉強会でも言ったんですけど、最初はそう出てきたのが、「やがて地上に降り来る輝かしい地球規模の大変革」って何かソフトな柔らかい表現に変えられたんですけど、もう最初の厳しい表現で受け止めるときが来てるんだと思います。

いきなり輝かしい世界は来ません。産みの苦しみのような時代、それが何週間なのか、何ヶ月なの

か、何年なのかわかりませんけれども、そのときを通り過ぎなければいけない。そのときに本当に働く人たちが今生きてる私達なんだと思います。

だから今、そのときに力を発揮できるようになるために、今、一生懸命力を蓄えてる状態なんだと思います。もしかしたら、前回も言いましたけど、もう何割か本番に入ってるのかもしれない。だけど、まだまだ序の口だと思います。

これから本当にいろんなことが起こると思うんですけど、そのときに不動心を保てる自分を育てるっていうことが、私達1人1人が今、やるべきことです。誰もやってくれません。誰も代わりに、身代わりになってくれません。自分がやはりやるしかないんですよ。自分を変えるっていうのは、自分が育てるしかない。

そういうわけであんまりご質問とかないようですね、ええ、そうですね。神聖復活の印をどうしましょう、あまり長いとあれですね、3回連続で組んで終わりにしたいと思います。お体のつらい方は座ったまんまで大丈夫です。

<神聖復活の印を三回>

中澤さんのご様子ですけれども、お変わりなしです。お咳がなかなか途切れることなく出て、腹筋が痛むという状況が続いておられるようです。

日曜日、昨日の朝の祈りの会をご覧になったと思うんですけど、司会の古賀さんが最後の皆さんありがとうございましたっていう挨拶をするときに声を詰まらせてました。私、「古賀さん、なんで泣いてるんだろうな」って思いながら、後からご本人に聞いたんです。「古賀さん、どうして泣いてたの?」って。「斎藤さん、それ泣いてたんじゃないんですよ。最後にね、五井先生のお声がCDで聞こえて、五井先生の拍手が聞こえて、そしたら嬉しくなっちゃって、なんか勝手に、何か声が詰まったんです」って、そういう言い方をされました。

ある方は、古賀さんに何人か問い合わせされたそうです。「古賀さん、中澤さんのご容体はそんなに深刻なんですか?」って。古賀さんが泣いていたものだから、私が中澤さんのお祈りをした後に、古賀さんが声を詰まらせたものだから、中澤さんの容態が深刻なのではないかと心配をして、古賀さんに問い合わせをした方がいたそうです。

でも、状況はこの何ヶ月同じです。変わらない状態。それは日々の上下はあるかも知れないですけれども。ご本人は、人に弱いところを見せたくない。やっぱり昔の男の人ですから、調子の悪いところは見せたくない。

だから、なんか「いや、良くなってきてますよ」とかっていう、そういう言い方をされるんですけども、相変わらずお辛い状況にあることは変わらないと思うんで、天命完うのお祈りを引き続き皆さんの方にもお願ひしたいですし、私達も今回、土曜日の夜と日曜日の朝にやったように、週に1回土曜日の夜と日曜日の朝に中澤さんが復帰されるまで続けようと思っています。

あんまり毎日毎日やって、日々的に取り上げると中澤さんが嫌がるんです。だから、土曜日と日曜日にひっそりとやらせていただきたいと思っております。

本当に最近、あの、皆さんの周りでもそうかも知れないんですけど、健康だった方が健康状態を崩されたり、お元気だった方が天国に帰られたりとかっていうことが、あるんじゃないかしらって思うんですけど、もう私も、大林さん以降、涙腺が緩んでしまってよく泣いてます。

そんな泣かない人なんですけど、親が死んだって泣かない人なんですけど、ちょっと最近涙もろくなっています。命は永遠だって、もう頭ではわかってる。でも自分のよく知った人たちが逝くっていうのは、どうにもこの気持ちが追いついていかないんですね。

「人が死ぬことはお祝いなんだ」って高橋英雄さんがおっしゃってましたけど、なかなか 100%お祝いだって思えない自分を、ちょっと日々自覚します。でもこれが悟り済ましたらそれはそれで冷たい人間なのかなと思うんで、変える必要もないことなのかもしれないんですけど、早く靈界通信テレビ電話ができて、あの世の方々と、電話でお話するように会話ができる時代になつたらいいなって思ってます。

はい、では、これで終わりにしてもよろしいでしょうか？大丈夫ですか。はい、ありがとうございます。10 分オーバーしましたけれど終わりにいたします。